

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 7月 1日

東京大学での所属学部・研究科等:	農学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シドニー大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:種苗・食品)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

シドニー大学は長い歴史を持つ名門大学であり、東大より少し古い170年前に設立されました。また世界ランキングも上位で、2017年のQSでは46位です(ちなみに東大は34位)。オーストラリア国内1位ではないですが、international studentも多く、国際色にあふれる総合大学です。現在はアジアからの移民や留学生が多いですが、特に地域の偏りは感じませんでした。

留学した動機

やはり英語を使いつつ、異なる文化で生活するという事は1つの大きな動機でした。また、オーストラリアが南半球にある大陸であり日本と大きく気候が異なることは、農業に興味がある自分にとってオーストラリアを選ぶ大きな理由になりました。そこで教えられている内容も、日本とは大きく異なる価値観に基づいている部分があるだろうと思いました(実際にそうだったと感じます)。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2018年	2月~	2018年	7月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			70	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			2	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		0ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

他の学部や学科と同様、3年生A2タームまでにおおよそ単位を取り終えることができるため、4年の卒論開始を遅らせて7月からにすることで、在学期間を延長することなく修了するスケジュールが組めます。代わりに夏休みを含めた帰国後の余裕はあまりありません。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

シドニー大学はインターネットでの申請や対応が非常に充実しているので、手順は複雑ですが安心感をもって進められると思います。ただし、大学のホームページがややわかりづらい構造をしているので、しっかりと該当項目を見逃していないか確認したほうがよいです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

オーストラリアでは学生ビザ(Student Subclass)が必要です。ネット上での手続きになりますが、書類が複数必要なので事前にチェックしておくといでしょう。留学先の大学からの書類も必要です。申請から発行までは時間がかかる場合もあるので早めに出しましょう(1~2か月前)。ちなみに現地では短時間のアルバイトが可能です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私は特に健康診断などは受けませんでした。歯科・眼科などで日ごろ気になっているものについては解消しておくとい安心できます。入国の際に必要な予防接種は特にないはず。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

両方の大学からそれぞれ加入保険が指定されるので、それに従いました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

私の場合は4年生の春に研究室が決まったため、配属の前段階から各教員に連絡したり、決定後も卒論内容について検討したりと、ある程度必要なコミュニケーションをとってきました。大幅に日程を変更してもらうため、それを基準の1つにして配属先を選ぶことも重要でした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLは90点でWritingの点数が特に低く、多くの大学で足切りになる状態でした。出発前に短期で英会話教室に行きました。無駄な出費になるかとも思いましたが、結果的にある程度の自信につながったと感じています。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シドニーでだいたい物は買えるので、特別必要なものは常備薬くらいだと思います。DAISO, UNIQLO, H&Mなど日本と同じ系列の店も探せばあります。大手のスーパーマーケット(Coles, Woolworths)では日用品や雑貨も売っているので、到着直後はそこへ行くと便利です。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Production Horticulture	6				
Plant Health and Disease	6				
Statistics and Natural Sciences	6				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は難易度別のコードナンバーがついているほか、形式もlecture, practical, discussionなど多様です。課題量も多く、東大とは異なる点ばかりなので予復習はしっかりしておいてほうが良いと思います。Final examがある場合、6単位分に相当する範囲が出題されるので気をつけましょう。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

交換留学生は3-4 unit (1unit = 6points = 6単位)をとる必要があります。私は東大で取っていなかった分野を履修したため、それなりの時間を使って勉強する必要がありました。たとえば数週間ごとにレポートや発表があり、その直前の週末は図書館などで1日費やす日もありました。

④学習・研究面でのアドバイス

グループ発表などでクラスメートと仲良くなる機会があるので、シドニー大学なりの勉強スタイルや試験の形式を聞いてみたりするとおもしろいと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

私はやはりスピーキングが苦手でしたが、実際の技量より話すときのメンタルの影響が大きいと気づいたので、頭の中で無駄に文法を気にしたり、構文を作ったりする癖をなくすように努力しました。アドバイスとしては、いわゆるカジュアルな日常会話や、SNSなどテキスト上の書き方に注目してみると今まで学んだ「フォーマルな」英語との違いがあって勉強になります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

1学期だけの留学だったので、大学の案内に載っていた個室の学生寮に入寮しました。とても清潔で環境もよかったです。家賃はかなり高いほうで、事前に相場を知っておけばよかったと思いました。ただし、シドニーの都市全体としての競争率はかなり高いので、最初の居住地としてどちらを取るかは悩みどころだと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

冬は温暖で夏もかなり暑くなりますが、降水量は少なく、春や秋はざっと降って晴れるような(showerと呼ばれる)天気になります。虫が少なく、蚊は日本のように痒くなるタイプではないのでありがたいです。大学のキャンパスにはカフェが多く、周囲にNewtownとよばれる商店街地区があるため、食事には困りません。金銭関係では、私は現地の口座を作って日本から送金していました。そのほうが為替レートで得になります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

キャンパス付近の都市部は治安が良く、あまり危険を感じたことはありません。都市周辺部の治安はところどころ悪いようで、現地ではたびたび事件の報道があります。医療システムは日本と若干異なり、日本での薬局はChemistと呼ばれていますが、調べれば概要がつかめると思います。私は現地で医者にかからなかったため、あまり詳しくありません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

前述の通り費用の高い寮に入っていたため、家賃だけで12万円かかってしまいました。物価は全体的に日本より高く、食費で4~5万円かかりました。あとは個人的な出費になりますが、交通費が月4000円、スマホ通信量(10GB)が月4000円などです。ちなみに段ボールで日本に荷物を送ると一箱5000~10,000円かかります。

・留学に要した費用総額とその内訳

航空券:往復20万円、家賃:16週間で48万円、食費18万円など。総額で約13000AUD (=110万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

全学交換留学の奨学金(月5万)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

シドニー大学でのサークルはSocietyと呼ばれていて、主にFacebookなどでイベントを情報発信しています。たとえば日本文化系のサークルがあり、そこは留学している日本人を含めて日本に興味のある学生が集まっているSocietyです。また、学生ビザでは短時間ながらアルバイトが可能なので、探してみるのもよい経験になると思います。時給は日本より高く、場所によっては非常に良い環境です(トラブルもあるので注意が必要)。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生やインターナショナルの学生が多いため、サポート体制は充実しています。また、シドニー都市圏内の公共交通が半額になるので、気軽にバスを利用できるのはありがたかったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

いずれも充実していて、学生の人数が非常に多い(全体で6万人いる)ことから設備の数も相対的に多くなっています。一部の図書館が24時間開いているのには驚きました。ただし、試験前などのピーク時には混雑が激しく、席が見つからないこともあります。キャンパス内は学内ネット環境が整備されているので、フードコート(食堂)や図書館などでよく利用していました。通信速度は比較的良好でした。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

「一度海外で生活した」という経験自体が、活動範囲の視野を広げるにつながったと思います。また、インターナショナルの学生との交流を通して、自分が今まで持っていた各国に対するイメージは大きく変化したと思います。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私にとっての留学は初めての海外生活でもあり、それ自体が新鮮な体験でした。それは全体として言えば「異文化の体験」になるのですが、私は同じように外国から来た学生との交流を通して、彼ら自身がそれぞれ持つバックグラウンドを合わせて知ることができた点を、とりわけ貴重だと思っています。

②留学後の予定

4年生なので院試へ向けての勉強や卒論の準備を進める予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学する際には英語の勉強や現地の情報など、事前に気になることがたくさんあると思います。どんなに調べても100%大丈夫ということはないですが、多くの情報を集め、準備しておけばそのぶん得られるものは大きくなるでしょう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

現地で一般的なSNS……Facebook, Messenger。現地のバスや電車の位置情報……Google Map。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 11月 5日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	シドニー大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

オーストラリアで最古の大学。国内トップ大学の一つで、留学生の数も非常に多い国際性豊かな大学です。オーストラリア国内の大学連合であるGroup of Eightに所属し、環太平洋地域を代表する37の主要大学で構成される環太平洋大学協会(APRU)のメンバーでもあります。シドニー近郊に複数のキャンパスを持っており、メインキャンパスはシドニーの中心部に位置しています。

留学した動機

英語がそこまで得意ではなくあまり国際経験もなかった自分は、大学生のうちに海外での長期滞在の経験をしておいたほうが、卒業後も再び海外へ学びに行く、働きに行くなど、語学力や視野など様々な意味で選択肢が広がるのではないかと考えました。また、海外での修士号取得などにも興味があったため、海外で勉強をしっかりと1年間を体感してみたかったため応募しました。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017	年	学部3	年生の	S1	学期まで履修	
②留学中の学籍:	留学						
③留学期間等:	2017	年	7	月~	2018	年	
	学部3	年時に出発					7
④留学後の授業履修:	2018	年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2018	年	学部4	年生の	8	月頃に 行った	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位						単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位						42
	留学後の取得(予定)単位						21
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015	年	4	月入学	2020	年	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:					5	年	
⑨留学時期を決めた理由:	0ヶ月間						

後期課程の経済学部で基礎的な科目を終えた後であるため、留学先で発展的な内容を学ぶことが可能であり、卒業を1年間伸ばすことで帰国後の満足な研究活動と一般的な就職活動を行うことができる時期だから。

留学準備

① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

オンラインで留学の申し込みを大学に行いました。国際本部の方の指示に従って申し込みれば大丈夫です。一方でカレッジと呼ばれる寮に入りたい場合は、大学側から受け入れ許可が届くのを待っていると部屋が埋まってしまう可能性が高いため、留学の申し込みとは別に自分で並行して行っておく必要があります。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは6月に申請し、申請した翌日に許可のメールが届きました。特別苦労することはなかったかと思います。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

一般的な風邪薬や腹痛止めなどを少し持参しました。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学から求められた付帯海学と、シドニー大学側から求められたOSHCに加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部にて履修している演習(ゼミ)の単位分割申請。

⑥ 語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

オンライン英会話などを留学前に行ったりしていましたが、現地の日常会話の英語はそれよりも幾分速いように感じました。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シドニーでは基本的に生活に必要なものはなんでも揃い、日本食なども少し高いですが現地で手に入ったりするのでとくに心配はいらなと思います。

学習・研究について

① 履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Intermediate Econometrics	6	●	Econometric Models and Methods	6	●
Experimental and Behavioural Economics	6	●	Data Science: Big Data and Data Diversity	6	●
Corporate Finance II	6	●	Linear Algebra	3	
Services Marketing	6	●	Calculus Of One Variable (Advanced)	3	

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学を通して特に計量経済学などの実証手法や、行動経済学など経済学理論と現実をつなぐ分野を意識して履修しました。2学期目に履修した計量経済学の授業の中身は修士又はHonorsレベルのものだったので苦労しましたが、チームプロジェクトなどもあり楽しかったです。各授業で提出物などが定期的にあるので忙しく、特に予定やクラブ活動がない限り大学の図書館や寮の図書館に通って勉強していました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

基本的に経済系・ビジネス系科目は毎週2時間のレクチャー+1時間のチュートリアルで成立しています。しかし3年生の経済科目はチュートリアルとレクチャーが連結して3時間のレクチャーのようにになっているものが多く、座学主体で交流や会話が少なくなってしまう可能性があることは留意すべきです。理系科目については、コンピュータサイエンス系だとレクチャー2時間+ラボ2時間、数学だと2時間のレクチャー+1時間演習など科目によって異なります。

④学習・研究面でのアドバイス

経済学部などの座学主体の授業では勉強に費やすだけ交流の時間が少なくなってしまう可能性があるため、チームプロジェクトがある授業なども選ぶようにした方が良いと思います。履修許可はかなり緩いので、Prerequisitesを厳密に満たしていなくてもとりたいた授業があれば申請してみると良いと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

授業もそうですが、自分の住んでいた寮ではオーストラリア人以外にインド人、中国人、コロンビア人、パキスタン人など、様々な国出身の人がいてそれぞれ訛っていたので初めのうちは特に聞き取れず大変でした。留学前からオンライン英会話や英語のドラマを暇なときに見るなど英語に触れることを継続しつつ、たまに純粋なアメリカ英語以外の英語も聞いてみると、よりスムーズに英語生活に馴染めると思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

1年間を通して、カレッジと呼ばれるシドニー大学の学生寮に滞在しました。シドニー大学側からは直接案内されないの、自分でウェブサイトを訪ねて応募する必要があります。カレッジは基本的に1日3食込みで、食堂で食事することになるので自然と寮内に友達はできていきます。大学のメインキャンパスのすぐそば、あるいは中に立地しているため、アクセスも非常に便利です。ただ家賃は奨学金をもらっていたとしても非常に高いのが欠点ではあります。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

年間を通して温暖ですが、冬季は夜間に冷え込んだりするので注意が必要です。シドニー大学は市街地に近く、メインキャンパスから10分ちょっと歩けば市街地の中心まで行けるのでアクセスは良いです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

基本的に市街地の治安は悪くありません。現地で体調をそんなに崩したことがないので現地の医療機関にかかることはありませんでしたが、日本人の医者やスタッフがいる医療機関もあるようなので特に心配はないかと思えます。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃(三食込み):16万円

・留学に要した費用総額とその内訳

家賃(三食込み):180万円
雑費:20万円
往復渡航費合計:18万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOによる奨学金で月7万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

シドニー大学のダンスサークルやバドミントンサークルの活動に参加していました。休暇期間は一時期シンガポールに滞在し、現地の会社でインターンシップをしていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生も利用できるイングリッシュライティング講座などが、正規の授業とは別にstudent centerで開講されており、それらを積極的に利用すると良いかもしれません。またUSUでLanguage Exchange Buddyという制度で違う言語を学びたい人同士でパートナーを組むことができます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は24時間開館しており勉強する環境は整っていますが、特にテストが近くなってくると日中は席が埋まってしまうことが多いです。寮や学生マンションのようなところには内部に図書室や自習室があったりするのでそれを利用するのも良いと思います。食事は基本的に寮の食堂で食べていました。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

他の地域と比べても留学から戻ってくる時期が遅いため苦労することがありました。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本以外の場所で働く生活も全然良いと思えるようになりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

東京大学の同窓会の方々に話を聞いたりしました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 |
| <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公的機関(機関名:) |
| <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| <input type="checkbox"/> | 6. 起業(分野:) |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外の学生たちや先生とともにしっかりと腰を据えて勉強していた経験は自分の中でも自信となりました。休暇期間中に一時期シンガポールで働いたりしていたことで、言語的能力や現地の文化・仕組みを知らないといったことはあっても、十分海外で働いていけると感じました。また以前と違って、日本人じゃない人を見ても外国人だと思わない・意識しなくなったのも自分の中で大きな変化だと思います。

②留学後の予定

就職活動をしつつ、留学先で学んできた計量経済学を東大でもより深く学びたいと考えています。そして来年はそれを活かした卒論を書きたいと思っています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

多くの方が同じようにおっしゃっていると思いますが、迷っていたり明確な目的を考えることができなくても、留学に一歩足を踏み出すことは意味があることだと思います。留学の価値や目的、意義は人それぞれですが、留学へ行って振り返って後悔することはあまりないのではないかと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Globalのウェブサイトに載っている各大学の留学体験記

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。